

久留米工大生と交流会

仕事の魅力、楽しさ伝える

士南
建築協
会事務
所

(一社)福岡県建築士

事務所協会南支部(横溝第一支部長)は15日、

久留米工業大学で建築を学ぶ学生と会員企業との交流会Ⅱ写真Ⅱを同大学で開催した。交流会には会員企業の代表者、久留米工業大学建築・設備工

学科の学生らが参加。学生は将来についての不安や悩み、業界の現状について質問、それに対し会員がユーモアを交えつつ学生時代のエピソードを語ったほか、仕事のやりがい、楽しさなどを伝え

た。

交流会は、より良い建築を設計し続けるため、やる気のある若手技術者の育成を考える協会側

と、将来の学生の進路に役立てたい大学側の意見が一致し開催しているもの。

横溝支部長は「今年も交流会を無事に開催できることに感謝する。昨年からは顔を合わせての交流会を実施している。建築士の仕事についてより具体的に知ることができるので、将来の役に立てて



もらいたい。お互いに有意義な時間となればと思う」とあいさつ。

続いて、小塩悟広報・渉外委員長(株)小塩悟建築設計事務所)が趣旨説明を行い、交流会は事前に参加者に対して行ったアンケートに会員代表者が解答する形で進められた。会員解答者は木村昭文

氏(ワイールドデザイン一級建築士事務所)、井上文雄氏(南井上建築事務所)、濱崎宣子氏(Dar・Fruito一級建築士事務所)ら7人。学生は大学のうちにやっておくべきことや仕事のやりがい・楽しみ、進路決定を決める要因や時期、女性が活躍できる業界で

あるかなどを質問した。就職先を決める要因との質問に対し、井上氏は「自分がやりたい仕事を探すことが第一で、どの分野に携わりたいかをまず考えること。その次に給料や残業の有無などを検討材料にすると良い」とアドバイス。

また、就職までの過程や建築を楽しく学ぶためにはとの質問に、木村氏は「就職先のことでも悩むのは当然だが、いずれは進路を決めないといけない。その答えは自身の経験から導き出すもの。日常生活で気付くこともあるので、多くの建築物を見て知識を増やしてほし

い」などと語った。女子生徒からの女性が活躍できる業界なのかとの質問に対し、濱崎氏は「女性でも活躍できる会社は面接時にリサーチすることもできる。現場では力仕事も経験する可能性もあるが、女性ならではの細かい気配りが大変喜ばれる業界でもあるなど、苦労を一つの糧にする大切さを伝えた。

なお、第2部では学生がコンペに出展した作品をプレゼンし、会員がそれぞれの視点で審査を行い、講評する場も設けられた。「写真①は交流会①はプレゼンの様子」